

山口県 令和2年度完了報告書

1. 調査研究概要

本県では、令和元年度から、中学校区内の学校を継続的に訪問し、カリキュラム・マネジメントに関する指導・助言を専門的に行う「社会に開かれた教育課程推進リーダー(教頭職)」(以下「推進リーダー」という。)を配置することで、学校と家庭・地域の連携・協働による教育活動を推進し、社会に開かれた教育課程の実現を支援している。この目的のため、3名の推進リーダーを県内の小学校1校、中学校2校に配置しており、各推進リーダーは、カリキュラム・マネジメントの3つの側面から学校教育目標に基づく教育課程や教育活動の見直し、学校評価システムの検討等を行うとともに、接続する小・中学校や市内の学校への指導・助言を行ってきた。

この研究成果を、「カリキュラム・マネジメントの手引き」としてまとめ、県内の小・中学校に発信することで新学習指導要領に基づいたカリキュラム・マネジメントの充実の一助となることを目指した。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
6月	第1回カリキュラム・マネジメント情報交換会議(オンライン) 県指導主事による実践校訪問
7月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議(オンライン) ・研究の内容、計画等 ・萩市立大島小中学校の取組 ～コミュニティ・スクールを基盤にして社会に開かれた教育課程を実現する「児童生徒が地域と創る ふるさと大島学習」～ 萩市教育委員会学校教育課 指導主事 田中 由起枝 ・各校の取組

	・指導助言
8月	第2回カリキュラム・マネジメント情報交換会議（オンライン）
9月	県指導主事による実践校訪問
10月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議 ・対談「社会に開かれた教育課程の実現に向けて～学校・地域連携カリキュラムの質の向上～」 山口大学大学院教育学研究科 教授 池田 廣司 宇部市立上宇部中学校 校長 藤井 一憲 ・各校の研究の成果と課題
11月	第3回カリキュラム・マネジメント情報交換会議（オンライン） 県指導主事による実践校訪問 岩国市小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業 研究発表会
12月	第4回カリキュラム・マネジメント情報交換会議（オンライン） 第1, 2回学校・地域連携カリキュラムとカリキュラム・マネジメント研修会（オンライン） ※管理職・ミドルリーダー対象 ・対談「社会に開かれた教育課程の実現に向けて～学校・地域連携カリキュラムの質の向上～」 ・各市町教委会場にてグループ協議
1月	第3回学校・地域連携カリキュラムとカリキュラム・マネジメント研修会（オンライン） ※若手教員対象 ・総合的な学習の時間について ・各市町教委会場にてグループ協議
2月	やまぐち教育フォーラム（オンライン）での発表 第3回カリキュラム・マネジメント検討会議 県指導主事による実践校訪問
3月	カリキュラム・マネジメントの手引きのWeb公開

2. 調査研究の内容

実践校【岩国市立東小学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

「小中一貫教育の推進に向けた組織づくりとPDCAサイクルの構築」

「キャリア教育を柱とした9年間を見通したカリキュラムの編成」

(2) 調査研究の内容

ア 学校横断的な組織編成とPDCAサイクルの確立

岩国ひがし中学校区の校務分掌組織を「学び」「こころ」「からだ」「つながり」

の4部会に統一して役割を明確化し、学校同士が関わる体制を構築した。その上部に

推進委員会を設置し、方向性の決定や進捗状況の把握を行った。また、部会ごとに、提案、実行、評価、改善を行うことで、P D C Aサイクルの取組を進めた。

イ 育てたい資質・能力の重点化と明確化

キャリア教育の視点から定めた12項目ある資質・能力について、教職員アンケートを基に9カ年の区分ごとに4項目ずつの重点化を図った。また、育てたい資質・能力の解説や児童生徒向けの説明資料を作成することにより、付けたい力の明確化を図り、教職員での共通理解を図った。

ウ カリキュラムを通じた家庭・地域との協働

学校が作成した生活のきまりについて、学校運営委員会での熟議を通して、家庭・地域版を作成し、家庭や地域への啓発と協働して子どもたちを育てるという意識化を図った。また、岩国ひがし学園（3小・1中）全教職員と地域住民による合同研修会を実施し、学校・地域が連携するカリキュラムを作成することを通して、教育課程を社会に開く取組を行った。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

<成果>

ア 学校横断的な組織編成とP D C Aサイクルの確立

4校の全教職員が関わる組織編成を行ったことにより、互いの学校間連携が進み、小中一貫教育を推進しようとする教職員の意識が高まった。このことが、9年間を見通したカリキュラムづくりや乗り入れ授業、児童生徒同士の交流活動につながっている。また、部会ごとのP D C Aサイクルの取組を進めたことにより、カリキュラムの改善点や課題の把握が容易になり、実効性のある取組へ改善していくことができた。

イ カリキュラムを通じた家庭・地域との協働

今まで学校だけで考えていたことを、保護者や地域の方と一緒に熟議を行い、お互いの思いを共有することによって、関わろうとする意識が高まったと言える。また、地域と関わる教育活動を一緒に洗い出し、新たな提案も加えたことで、協働した取組を進めることができるようになった。

<課題>

育てたい資質・能力の重点化を図り、授業や学校生活の中で育てていく取組を進めたが、それをどのように評価していくかが課題である。例えば、この活動では、どのような姿が資質・能力が付いた姿なのかをさらに明確にしていく必要がある。

また、評価方法についても課題が見えてきた。現在は、キャリア・パスポートの内容も方法の一つとしているが、資質・能力との関係を踏まえた内容へと変更していく必要がある。さらには、授業アンケートや活動ごとの児童生徒アンケートを全校で行い、その分析を行うことで評価につなげていく必要がある。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
6月	今年度の方向性と資質・能力の重点化について検討、確認
7月	各種カリキュラムの試行等

8月	施設一体型校舎における小中協働のための共通理解（小中合同職員会議） 研究発表会に向けた研修（小中合同研修会）
9月	児童生徒が関わる授業，乗り入れ授業開始
10月	昼休み体験教室（絵手紙教室）開始
11月	岩国ひがし学園研究発表大会
12月	全教職員での反省，振り返り
1月	熟議による生活カリキュラム【家庭・地域版】作成（小中合同学校運営協議会）
2月	全教職員・地域による学校・地域連携カリキュラム作成（小中合同研修会）
3月	来年度の方向性の確認

実践校【山口市立平川中学校】

（１） 研究テーマ

- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
「言語能力の育成を軸としたカリキュラムの作成へ向けた取組」

（２） 調査研究の内容

- ア 言語能力を育成するための効果的な手法の研究
「知的活動」，「感性・情緒等」，「コミュニケーション能力」の3つの視点で教育活動を整理した。また，「アウトプット」，「インプット」，「モチベーション」を意識して教育活動を構想した。
- イ 言語能力を育成するために地域資源を活用する場面の設定
学校が提案をして生徒と地域の方々が交流できる場面を設定した。
- ウ 言語能力の育成へ向けたビジョンの共有
地域協育ネットでのグランドデザイン作成，視覚的なPR，生徒による広報活動などにより，学校・家庭・地域が同じベクトルで教育活動に関わる仕組みを整えた。

（３） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

<成果>

- ア 言語能力を育成するための効果的な手法の研究
言語能力を「アウトプット」，「インプット」，「モチベーション」の3つの資質・能力と捉えることで，より言語能力の育成を意識した教育活動を構想しやすくなった。特に，「アウトプット」の機会を設定することで，「インプット」や「モチベーション」の高まりが見られた。
- イ 言語能力を育成するために地域資源を活用する場面の設定
地域参加型道徳や放課後学習会，地域文化活動講座など，対話を軸として生徒が地域住民と共に学ぶことで，学びに向かうモチベーションの高まりが見られた。
- ウ 言語能力の育成へ向けたビジョンの共有
日常的に見ることができる場所への掲示を活用して言語能力の育成への意識の浸透を図った。また，グランドデザインの作成や広報活動に関わることにより，生徒・教職員・保護者・学校運営協議会委員は，学校が目指す言語能力の育成へ向けた取組へ

の理解を深めることができた。加えて、地域の回覧板を活用して、グランドデザインの周知を図った。

<課題>

- 教育課程の核となる総合的な学習の時間を探究的な学習として充実を図り、アウトプットの機会を設定することで言語能力のさらなる育成が必要である。
- 教職員や生徒はもとより、地域の方をはじめとする来校者に取組を継続して知ってもらえることが大切であり、取組の見える化の工夫が必要である。
- 様々な教育活動が言語能力の育成につながるよう、教育課程の編成・見直しが必要である。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	研修委員会【カリキュラム・マネジメントの理解、ビジョンの共有】
5月	研修委員会【教科等横断的な視点の育成】
6月	小中合同学校運営協議会【学校のビジョンの説明】 研修委員会【授業検討】
7月	研修委員会【言語能力の評価規準検討】
9月	小中合同研修会【グランドデザインの検討】
10月	研修委員会【総合的な学習の時間の構想】 研修委員会【地域参加型道徳授業・授業検討会】
11月	学校運営協議会【委員と生徒の熟議】
12月	研修委員会【授業検討】
1月	研修委員会【新学習指導要領の研修・評価について】
2月	小中合同学校運営協議会【学校の課題解決に向けたミニ熟議】 研修委員会【地域参加型道徳授業・授業検討】
3月	小中連携推進会議【次年度の推進体制の検討】

実践校【宇部市立上宇部中学校】

(1) 研究テーマ

- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究
「現代的諸課題に対応する資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方について」

(2) 調査研究の内容

- ア 教育課題の整理・焦点化
生徒や地域の状況を知る（教職員、生徒との協議、地域の方との日々のコミュニケーション、全国学力・学習状況調査等の資料の活用）
- イ 教育目標の具体化・共有
方向性を定め、共有する（校長、主任等との協議、職員会議での協議・共有、生徒会との協議・共有、学校運営協議会での協議・共有）

ウ 計画

重点的な取組を計画する（イと同様）

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

<成果>

ア グランドデザインの作成と共有

イ グランドデザインを活用した評価改善サイクルの構築

ウ 生徒を主役にした学校運営協議会のスタイルの導入

エ SDGsの視点からの学びと育ちをつなぐカリキュラムづくり

<課題>

○ SDGsカリキュラムの共有と実践

○ 高等学校との連携

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	研修職員会（今年度の取組について共有）
5月	研修職員会（グランドデザインの共有） 学校運営協議会（グランドデザインの共有）
6月	研修職員会（SDGsについての研修） 管理職連携定例会（グランドデザインの共有，今年度の取組について確認）
7月	学校評価アンケート（グランドデザインに基づいた評価項目の見直し，実施） 拡大学校運営協議会（グランドデザインの共有，今年度の取組についての確認） 管理職連携定例会（小中合同研修・交流会等の内容について検討）
8月	小中合同研修・交流会 学校運営協議会（学校評価アンケートの結果共有，2学期の活動について熟議）
9月	研修職員会（SDGsの視点からのカリキュラム作成①） 管理職連携定例会（中学校見学・交流会等の打合せ，グランドデザインに基づいた2学期の具体的な取組について検討）
10月	研修職員会（SDGsの視点からのカリキュラム作成②）
11月	研修職員会（SDGsの視点を取り入れた指導案作成） 中学校見学・交流会（生徒会企画・運営）
12月	公開授業研究会（SDGsの視点を取れ入れた授業） 学校評価アンケート 学校運営協議会（2学期の活動報告，3学期の活動について熟議）
1月	管理職連携定例会 （3学期の活動について確認，拡大学校運営協議会の内容について）
2月	研修職員会（社会に開かれた教育課程の推進についてのまとめ） 学校運営協議会（学校評価，次年度の活動について熟議） 拡大学校運営協議会（今年度の活動報告，次年度の具体的な活動について）
3月	研修職員会（今年度の振り返り，次年度の具体的な実践について）

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果，●：課題）

- 学校の基本方針の一つとして，育成をめざす資質・能力の明示の必要性についての共通理解
- カリキュラム・マネジメントの推進には，コミュニティ・スクールの仕組みを活用することが有効であることの再認識
- 地域の教育資源の活用の推進
- 社会に開かれた教育課程の実現に向けて，学校・地域・家庭が目標等（ビジョン）を共有するために，「学校・地域連携カリキュラム」を活用することが有効



各校における「学校・地域連携カリキュラム」の策定・見直し

学校・地域連携カリキュラム（山口県の定義）

「社会に開かれた教育課程」の視点をもとに，学校と地域が連携・協働する教育活動を体系的に示したカリキュラム

《含まれる内容や項目の例》

- ①学校の基本方針を示すグランドデザイン
 - ・育成をめざす資質・能力
 - ・各学校の教育目標
 - ・育てたい子どもの姿
- ②総合的な学習の時間との関連を図った9年間の単元配列表
 - ・児童生徒や学校，地域の実態に応じた探究課題（テーマ）の設定
 - ・他教科等との関連

- 育成をめざす資質・能力を踏まえた教育課程の見直し，改善の実施（リノベーション）
- 学校運営協議会との連携
- 「学校・地域連携カリキュラム」の見直しへの児童生徒の関わり

県内の小・中学校において，児童生徒が「学校・地域連携カリキュラム」の策定に関わった学校 小学校：1割程度 中学校：3割程度
（「令和2年度山口県公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査」より）

4. 参考資料

【必須】

- ①「カリキュラム・マネジメントの手引き」
- ②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料 ※各3部提出